


調査団体名	豊田市自然観察の森 ((財)日本野鳥の会「サンクチュアリ室」豊田グループ)	団体代表者名	大畑孝二
活動地域	豊田市自然観察の森	団体URL	http://www.toyota-kansatsu.com/
<p><活動内容></p> <p>豊田市自然観察の森周辺地域は、市街地近郊の貴重な里山環境として、2003年度から豊田市が地権者の方と土地の賃貸契約を結ぶことによる保全を進めてきた。そして、その地域を対象として、新しい環境教育施設の建設と保全計画を策定した。これらの事業は、(財)日本野鳥の会が受託し、「豊田市自然観察の森周辺地域基本構想」として報告書としてまとめられた。保全計画では、里山環境を好むサシバを保全目標種として選び、「サシバのすめる森づくり」をキャッチフレーズに、サシバが生息できる環境の維持・復元を目指すことにした。サシバは、カエルやヘビなどを主食としていて、生息には水田環境が必要である。2004年までサシバが観察されていた場所の水田が、地主の方の都合で農作業が行われなくなった。そこで、サシバの餌であるカエル類を増やすために水張り休耕田を維持することにした。また、サシバの生態や生息地の調査及びサシバの生息適地モデルづくりの研究活動を、名城大学の研究者らと行っている。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>この事業は、豊田市と(財)日本野鳥の会、名城大学などの研究機関との連携で進めている。サシバの保全活動では、千葉県佐倉市の市民グループ、日本野鳥の会神奈川支部などとも情報交換している。</p>			
<p><今までに行った調査・研究></p> <p>○「西三河地方におけるサシバの生息適地モデルの構築」(2009年、日本生態学会ポスター発表、名城大学・橋本啓史他)</p> <p>○「サシバの全国繁殖状況調査結果」(2008年、日本鳥学会ポスター発表、日本野鳥の会・大畑他)など</p>			
<p><現在直面している課題></p> <p>○2004年まで営巣していた豊田市自然観察の森周辺地域にサシバを再誘致することを目標にしているが、周辺部の都市化もあり、餌場としてはまれに飛来しているようだが、営巣しない。</p> <p>○休耕田の冬水田んぼ作業は、多くの労働を必要とするが人手がない。</p> <p>○三河地域においてもサシバの減少が心配されているが、過疎化を含め水田耕作の後継者がおらず、サシバの生息環境の減少が心配される。</p>			
<p><今後どんな情報が必要か></p> <p>サシバの保全のためには、中部地方のサシバの餌、行動圏、生息環境など様々なデータが必要である。</p>			
			
<p>サシバ誘致予定地で草刈りをする豊田野鳥友の会のメンバー</p>			